2021 日眼シンポジウム

眼科治療による涙液への影響（マイボグラフィー、インターフェロメトリーの変化）

Effects of various ophthalmic treatments on tear-film and meibomian glands

有田玲子（伊藤医院、LIME 研究会）

眼科学の発展により、多くの眼科疾患は治療できるようになった。また種々の治療法もより低侵襲なものに進化している。しかし、そんななかでも、やはり治療には功罪というものがある。まず、多くの国民が最も恩恵を受けているのが白内障手術であろう。白内障手術の発展も眼を見張るものがある。手術の発展により、眼表面に与える影響も最小限化しつつあるが、手術がきっかけでサブクリニカルな状態にあったドライアイが表面化することが最近、国際的に問題になっている。ドライアイのなかでも特にマイボーム腺に与える影響も深刻化している。次に代表的な疾患治療として抗緑内障薬点眼があげられる。抗緑内障薬は単剤ですむことは少なく、複数種類の点眼が必要となることが多い。抗緑内障薬そのものだけでなく、防腐剤の影響も強い。最後に、屈折矯正手術後、コンタクトレンズ装用によるドライアイ・マイボーム腺機能不全の問題があげられる。今回のシンポジウムでは、日常臨床の場で私達が経験することの多い疾患をそれぞれ治療することにより、涙液に与える影響を特にマイボグラフィー、インターフェロメトリーの所見の変化というかたちでご紹介する予定である。